

帝京大学板橋キャンパスにおいて「研究者のさらなる飛躍と持続可能な研究整備のための外部資金獲得セミナー」を9月11日(金)18時より開催いたします。基調講演1として東京女子医科大学の富澤康子先生、基調講演2として久留米大学の児島将康先生、特別講演は帝京大学内科学講座の田中篤先生にご講演いただきます。是非、皆様お誘いあわせの上ご参加ください。

尚、昨年同様当センターにおいて研究相談を受け付けします。ご希望の方はご連絡ください(期間:9月11日～10月16日まで)。

セミナー開催概要

日時: 2015年9月11日(金) 18時～19時30分

会場: 帝京大学 板橋キャンパス 本部棟2階 臨床大講堂

- 開会の挨拶 (18時～18時05分)  
冲永寛子 副学長・常務理事
- 基調講演1「科研費申請のコツ」(18時05分～18時35分)  
富澤康子 先生(東京女子医科大学心臓血管外科)
- 基調講演2「なぜあなたの申請書は採択されないのか? 実例で示すわかりやすい申請書」(18時35分～19時05分)  
児島将康 先生(久留米大学分子生命科学研究所)
- 特別講演「日本医療研究開発機構(AMED) 研究費公募申請・採択の経験を通じて感じたこと」(19時05分～19時25分)  
田中篤 先生(帝京大学内科学講座)
- 事務連絡 (19時25分～19時30分) 本部会計課

TOPICS  
1

充実のメンター制度

仕事と育児に悩む方や介護中の方などニーズのある研究者に対し、各専門講座のメンバーからなるメンターによる指導を受けることができます。4月よりメンター制度の基盤づくりに取り組み、当センターのホームページ([http://www.teikyo-u.ac.jp/affiliate/laboratory/support\\_center/activity/project01.html](http://www.teikyo-u.ac.jp/affiliate/laboratory/support_center/activity/project01.html))にメンタリングの流れなどの掲載を行っています。

メンタリングの流れと内容



- 期 間: 3ヶ月未満  
頻 度: 1ヶ月に1回以上程度  
時 間: 30分～1時間  
コンタクト: 学内面談・電話・メールなど  
(双方に負担のない方法)  
内 容: ワークライフバランス、研究・キャリア、進路、職場環境、介護など

TOPICS  
2

CONGRATULATIONS!!

2015年5月13日～16日、第88回日本産業衛生学会が開催され、研究支援員制度を利用している帝京大学大学院公衆衛生学研究科講師井上まり子先生が「非正規雇用労働者の健康問題」にて奨励賞を受賞しました。



※当センターの制度を利用された研究者の皆様、各学会などの研究活動にてこのような賞を受けた際はご連絡ください。

2016年6月、帝京大学は創立50周年を迎えます。



お問い合わせ先

帝京大学女性医師・研究者支援センター 〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1 病院棟6階

Tel. 03-3964-8456 / Fax. 03-3964-8457 / E-mail: women@med.teikyo-u.ac.jp

開室曜日・時間: 月～金 9時～17時

※掲載情報は2015年9月現在のものです。編集: 堀江/竹内/仲山



# 帝京大学女性医師・研究者 支援センター NEWS

Teikyo University Support Center for Women  
Physicians and Researchers



## 医療界の男女共同参画社会の 構築とキャリアデザイン

2015年6月より、医学部・薬学部・医療技術学部の3学部1年生を対象に共通選択科目「医療界の男女共同参画社会の構築とキャリアデザイン」が実施されました。現代における女性の就労状況、医療界の男女格差、ジェンダーに関する法律の講義を受けるとともに、班ごとに自身のキャリア計画を作成するワークを実施。結婚や出産の多様化、独身で自立して生きていくといった多くの選択肢のなかから、将来の方向性を見つける機会を提供しました。

2014年現在、我が国の労働人口は約6,000万人(うち女性の就業者2,701万人、雇用者2,406万人)とされ、特に女性の産業別就業者数では医療・福祉分野が1位と、医療系人材で女性の割合が多くなっています。しかし、経済発展の指標ともなるOECD加盟国と比較すると、女性医師や研究者の割合は日本が最下位、世界経済フォーラムの報告「ジェンダーギャップ指数」でも135か国中101位と、同分野における女性の社会的活用が大幅に遅れています。

そこで本科目では、医療界で活躍できる女性を育成するため、労働条件や女性の性別役割分業といった現場の実態、仕事と家庭を両立できる生き方をはじめ、将来に備えてどのように人生計画をたてていけばよいのかなど、医療界で生き抜く実践力を養うことを目的に全8回の講義を実施。元内閣府男女共同参画局推進課長であり、現在、帝京大学法学部の村上文教授をはじめ、医療共通教育研究センター大滝恭弘准教授、薬学部金子希代子教授、同じく薬学部榎直子教授、医学部そして当センター室長野村恭子准教授による、オムニバス形式の授業が実施されました。

担当教員

村上文教授(法学部)、金子希代子教授(薬学部)、榎直子教授(薬学部)、大滝恭弘准教授(医療共通教育センター)、野村恭子准教授(医学部・衛生学公衆衛生学講座)

授業計画

- 第1回 「我が国の女性の就労の現状と国の男女共同参画施策」 村上文
- 第2回 「医療界における男女の就労機会格差、医療界における労働問題」 野村恭子
- 第3回 「結婚と出産とタイミング」 野村恭子
- 第4回 「キャリアデザイン」 野村恭子
- 第5回 「女性研究者のワーク・ライフ・バランスを考える(スモールグループディスカッション(演習)を交えて)」 金子希代子/榎直子
- 第6回 「女性の就労とジェンダーに関する法律全般について」 大滝恭弘
- 第7回 「帝京大学における男女共同参画社会の構築の取り組み」 野村恭子
- 第8回 「講義のまとめ、習熟度試験」 野村恭子

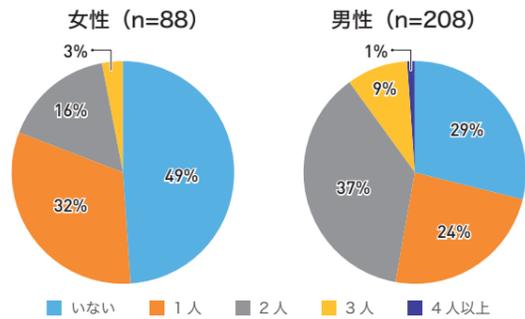
特集1

# 「育児・介護・研究支援と男女の役割意識に関するアンケート調査」結果報告

2015年1月に実施したアンケート調査の結果をご報告いたします。今回のアンケートは教員対象に行い、308人（女性94人、男性211人、不明3人）の方にご協力いただきました。回収率は27.7%でした。ご協力いただきま

▶ 育児の状況

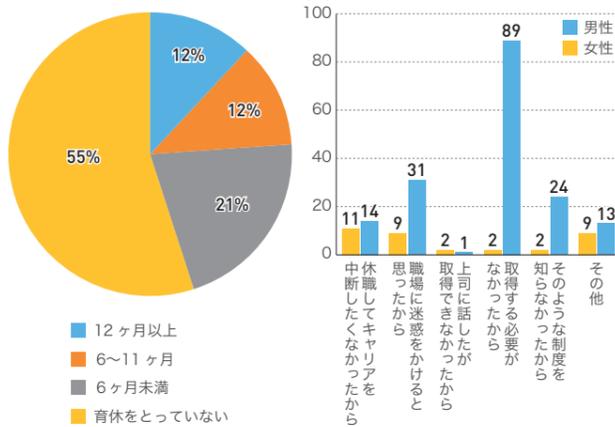
(1) 子どもの人数



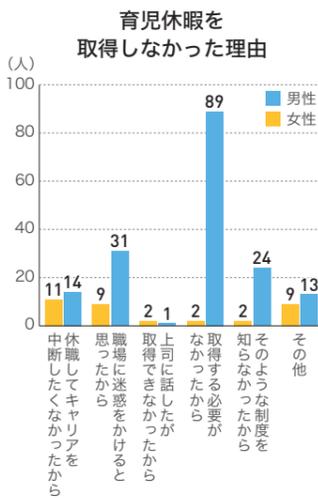
子どもの数は女性が平均0.7人、男性が1.2人と、女性のほうが少なかった。女性は男性よりもキャリアと子どもの選択に直面しがちであることが示唆された。6歳未満の子どものいる人は女性で15人（35.7%）、男性で34人（23.1%）、介護をしている人は女性で13人（14.3%）、男性で21人（10.2%）だった。

(2) 育児休暇の取得

女性教員の育休取得状況 (n=42)



育児休暇を取得した人は女性の約半数、期間は6ヶ月未満が最も多かった。男性で育児休暇を取得した人は1人のみで期間は5ヶ月だった。育児休暇を取得しなかった理由として、男性では「取得する必要がなかった」が最も多かったのに対し、女性では「キャリアを中断したくなかった」、「職場に迷惑をかけると思った」が多く、仕事とのバランスを考慮する意識がみられた。なお、介護休暇を取得した人は1人のみだった。

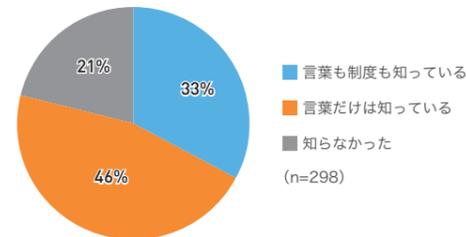


した先生方、誠にありがとうございます。その他の結果については、ホームページをご覧ください。

([http://www.teikyo-u.ac.jp/affiliate/support\\_center\\_houkoku20150813.pdf](http://www.teikyo-u.ac.jp/affiliate/support_center_houkoku20150813.pdf))

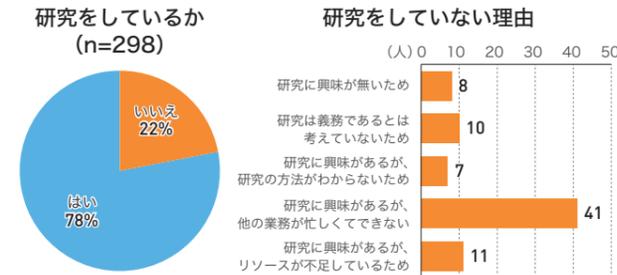
▶ 研究状況

(1) あなたは「メンター」という言葉をご存知ですか。



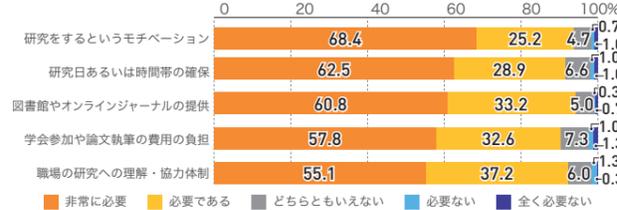
メンター制度の知識について「言葉だけは知っている」と「知らなかった」を合わせて60%以上であることから、当センターHPのメンター制度に関する項目を更新し、メンター名簿を掲載することで周知を強化した。

(2) 現在、研究をしていますか。



ほとんどの人が研究をしていたが、していない人も2割程度いた。研究をしていない理由は「研究に興味があるが、他の業務が忙しくてできない」が多く、多忙な業務のなかで研究時間の確保が難しいことがわかった。

(3) 研究を遂行する上で必要なことはなんですか。(上位5項目抜粋)



「研究をするというモチベーション」が非常に必要と回答した人が最も多く、個人の努力が必要と考えられていることがわかった。他に「図書館やオンラインジャーナルの提供」、「学会参加や論文執筆の費用の負担」といった設備・制度上のサポート、「研究日あるいは時間帯の確保」、「職場の研究への理解・協力体制」といった研究環境の重要性も挙げられた。

特集2

# 学内外でのセンターの活動

日本私立医科大学協会「医学振興」座談会

日本私立医科大学協会「医学振興」第80号に、沖永寛子センター長が司会を務め行われた「座談会:女性医師キャリア支援について」が掲載されました。

座談会概要

日時: 2015年4月9日(木) 16時~18時30分  
会場: アルカディア市ヶ谷(私学会館)

- 寺野彰氏 獨協学園理事長、日本私立医科大学協会会長
- 山本續子氏 医療法人並木会並木病院院長、日本女医会会長、厚生労働省「女性医師のさらなる活躍を応援する懇談会」座長
- 片桐由起子氏 東邦大学医学部産婦人科学准教授、男女共同参画推進センター長
- 大久保ゆかり氏 東京医科大学皮膚科教授、医師・学生・研究者支援センター長
- 斎藤加代子氏 東京女子医科大学遺伝子医療センター所長・教授、男女共同参画推進局女性医師・研究者支援センター長
- 沖永寛子氏 帝京大学常務理事・副学長、協会女性医師キャリア支援委員会委員長(司会)
- 炭山嘉伸氏 東邦大学理事長、協会広報委員会委員長(広報委員会)
- 小栗典明氏 日本私立医科大学協会事務局長(広報委員会)

DVD上映会

「産休・育休」、「ハラスメント」などをテーマとしたDVDの上映会を5月より行っています。部署、所属を問わず様々な職種の方にお越しいただき、上映会終了後は自然発生的に意見交換が行われています。9月は「アカデミックハラスメント」について、10月は「働く女性の60年」についてのDVDを上映しますので、ご関心のある方は是非お越しください。



キャリアセミナー

6月30日、Meet the professor「カナダ医科大学における女性医師のキャリアパス」が行われ、カナダ McGill University Health Centerにて活躍中の高野朋子先生にご講演いただきました。カナダではProtected timeとして臨床・教育・その他の義務がなく、研究に専念できる時間が確保されていることや、カンファレンスは朝8時以降開始、夕方5時半終了が基本であること、若手研究者のためにキャリア初期からアドバイスが可能であることなど、貴重なお話を伺うことができました。



帝京大学男女共同参画推進委員名簿一覧 (2014年、2015年度)

帝京大学女性医師・研究者支援センターは下記の委員の皆様のお力添えにより運営されています。今後ともよろしくお願いたします。

2014年度

氏名	所属
沖永寛子	帝京大学常務理事・副学長(センター長)
野村恭子	医学部衛生学公衆衛生学講座 准教授(室長)
秋山暢	医学部内科学講座 准教授
有賀悦子	医学部緩和医療学講座 教授
五十嵐香名子	医学部附属病院総務課
磯尾紀子	医学部生理学講座 助教
稲垣宏治	医学部附属病院総務課 課長
金子希代子	薬学部医薬化学講座臨床分析学研究室 教授
川杉和夫	医学部内科学講座・医学部医学教育センター 教授
岸恵美子	医療技術学部看護学科 教授
酒井正子	経済学部観光経営学 教授
笹森幸文	医学部産婦人科学講座 病院准教授
高山優子	理工学部バイオサイエンス学科 講師
竹内武昭	大学院公衆衛生学研究科 講師
植直子	薬学部医薬化学講座基礎科学研究室 教授
田村元男	本部人事課 課長
土谷明子	医学部附属病院看護部 看護部長
寺本民生	臨床研究センター センター長
橋本敏克	本部総務課 課長
藤崎竜一	医療技術学部救急救命士コース 准教授
船坂則夫	本部 事務長
村上慶子	医学部衛生学公衆衛生学講座 助教

2015年度

氏名	所属
沖永寛子	帝京大学常務理事・副学長(センター長)
野村恭子	医学部衛生学公衆衛生学講座 准教授(室長)
麻生保子	医療技術学部看護学科 准教授
有賀悦子	医学部緩和医療学講座 教授
磯尾紀子	医学部生理学講座 助教
稲垣宏治	医学部附属病院総務課 課長
金子希代子	薬学部医薬化学講座臨床分析学研究室 教授
笹島ゆう子	医学部附属病院病理部 教授
佐野圭二	医学部外科学講座 教授
関玲子	医療技術学部臨床検査学科 講師
高山優子	理工学部バイオサイエンス学科 講師
植直子	薬学部医薬化学講座基礎科学研究室 教授
田村元男	本部人事課 課長
土谷明子	医学部附属病院看護部 看護部長
筒井秀代	医療共通教育研究センター 講師
橋本敏克	本部総務課 課長
藤崎竜一	医療技術学部救急救命士コース 准教授
船坂則夫	本部 事務長
南川雅子	医療技術学部看護学科 教授
村上文	法学部法律学科 教授
山城康史	福岡キャンパス会計課 課長

(敬称略・五十音順)